

群馬県 烏川・碓氷川における外来カワヨシノボリの移入状況について

よくわかる！日本のヨシノボリ
サイト管理者 笠間 浩一朗

カワヨシノボリ (*Rhinogobius flumineus*) は、日本海側では富山県、太平洋側では静岡県を境界として、西日本を中心に分布する、ハゼ目オクスティルクス科ヨシノボリ属の淡水魚の一種である。

しかしながら近年、分布域外となる関東地方で移入集団と思われる個体群の報告が複数あり、特に多摩川水系では数多くの個体の定着が知られている。

群馬県の個体群に関しては情報が乏しいが、有力な情報を得たため現地にて生息状況の確認を行った。その状況をここに報告する。

今回の確認調査は 2025 年 8 月 9 日、群馬県高崎市の 1 地点（烏川）、安中の 2 地点（碓氷川上流・中流）で、タモ網を用いて行った。結果、高崎市、安中市下流の地点で確認されたヨシノボリ類は、すべてカワヨシノボリであった。いずれも一回の採捕時間は約 30 分であったが、烏川では 80 個体、碓氷川中流では 75 個体のカワヨシノボリが採捕された。一方で、碓氷川上流となる碓氷湖では、カワヨシノボリは全く見られず、ヨシノボリ類はクロダハゼ (*Rhinogobius kurodai*) と思われる個体が採捕された。

碓氷川においては生息状況の動画も撮影したところ、小型個体が多数見られた。
このことから、碓氷川でも完全に定着していると考えられた。

今回はスケジュールの都合上、3 地点の調査にとどまったが、碓氷川・烏川の他地点についても、定着状況のさらなる追加調査が必要と思われる。また、碓氷川上流、坂本ダムより上流の碓氷湖には、カワヨシノボリが侵入していないことも判明した。

今回の確認調査にて、副産物としてクロダハゼと思わしき個体が碓氷湖で得られた。クロダハゼに関して、本来は平野部で見られることが多い種であること、碓氷湖が人造湖であることから、移入集団である可能性も考えられる。しかしながら、これを断定するには遺伝子を調査する必要があるため、生息環境のみの情報をもとに、ここで得られたクロダハゼを外来種と断定する根拠は不十分であると判断した。

なお、この個体はトウヨシノボリ (*Rhinogobius* sp. "OR") である可能性も考えられる。

広義の関東平野といえる範囲内で採捕されているため、ここで得られたクロダハゼは暫定的に在来種と判断するが、今後遺伝子の確認調査といった追加調査は必要かもしれない。

参考資料

北原佳郎,加藤健,石川 均,品川修二,室伏幸一,三島市で採集されたカワヨシノボリ *Rhinogobius flumineus*,2013

<https://www.spmnh.jp/report/tokainh06/tokai0603.pdf>

佐藤正康,荒川水系黒目川と周辺水域における国内外来種カワヨシノボリの確認状況,2021

https://www.river-museum.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/kawahaku-kiyouNo.21_P17-20.pdf

古旗嶺一,内田大貴,栗田和弥,東京都多摩川水系大丸用水で確認された魚類,2020

https://www.jstage.jst.go.jp/article/izu/14/0/14_113/_pdf/-char/ja

内田大貴,川口貴光,井上泰彰,宮田 楓,本田大士,山根雅之,群馬県利根川水系青倉川で確認されたカワヨシノボリ 群馬県利根川水系青倉川で確認されたカワヨシノボリ,2023

https://media.niche-life.com/series/012/Niche012_43.pdf